
バニシングゲーム

菜月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バニシングゲーム

【Nコード】

N8068A

【作者名】

菜月

【あらすじ】

シヨートシヨートです。チャットを使ったゲーム・バニシングゲームはそれに参加したAI、人間を判別して振るい落とすゲームだ。

『バニシング・ゲーム』

「判んない。それナニ? > トンボ」

返事が無い。誰かに落とされたらしい。あいつも人間だったのか。見破ったのは残
つてるオレにマナにヨシユア、ノリの4人。この中の誰かがAI（人工知能）だ。

バニシング・ゲームはチャットというパソコン通信を利用したモード内で行う犯人

捜しのゲームだ。元々は実際シナリオを作って誰かが犯人役をやつてその犯人を当て
るゲームだったのだが、シナリオを作るのもホネなのでAIをチャットに入れて皆な
AIの真似をしてログイン・ネームを変えて参加し、AI捜しと人間追い落としをやるようになったものだ。

AIがやってるログイン・ネームはどれか。それを早く見つけた人に時間に応じて
点数が入る。又、AIの振りをしてる人間を指定したらその人のそこまでのポイント
の半分を奪える。指定はコントロール・キーでコマンドを送るとマシンが判断し、間
違ったり当てられたりしたらさっきのトンボのようにゲームから脱落だ。

ゲーム開始時にいた11人も次々と消されていまや4人。俺にもバニシング・ポイ

ントが2人分入ってる。AIを発見したらそれでこのゲームも終わりだから残る誰かがAIだ。

さつきから同じ事言ってるノリは却って怪しい。人間だろう。

しかし、今回はAIもプレイヤーもこの手のゲームのブロックを勝ち抜いて来たつわものだ。

ここで間違うと却ってトータル・ポイントを与えてしまう。ここは第1感に従って

ノリは人間だ。ホストからバニシングポイントが3人に増えたところと知らせてくる。

これゲーム・ポイントはまだしも、トータル・ポイントはほぼ1位だろう。しかし

このゲームにも勝たないと回り道をすることになる。後3人。もう一人落とせば残り

がAIか人間か判る訳だ。AIみたいな話し方をしたり、わざと人間に近い話し方に

したり…。AIも進化しててタマに変な言葉を出すからだ。

“ヨシユアがバニシングされました。ホストが知らせる。

やった、これでゲーム・オーバーだ。ヨシユアがマナを人間と間違ったのだろう。

いつものゲーム・メッセージを待ったが、こない。ハハアさては…。俺は以前にや

ったバニシング・ゲームでホストが黙って2人分AIを入れてたのを思い出した。あ

れと逆で途中でAIをわざと落としていたのに違いない。

待てよ。ここでこいつを人間と指定してAIだったら……。

その時、ホストからメッセージがあった。“貴方は正体を見破られました。”

あいつは人間だったのだろうか？AIだったのだろうか……。

ふとそんな疑問が頭

をかすめた。そしてゲーム終了のスコア表示がなされた。

それとももしかして俺は…。

ゲームは終わった。

(了)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8068a/>

バニシングゲーム

2010年11月6日01時34分発行